

(倫理様式 2-2-1)

## 回復期リハビリテーション病棟における 脳卒中患者のアパシーと ADL 能力との関連

### 1. 研究の対象

2022 年 4 月以降に当院回復期リハビリテーション病棟に入院し、2024 年 12 月までに退院した初発の脳卒中片麻痺患者全症例

### 2. 研究目的・方法

回復期リハビリテーション（リハ）病棟の役割は、一定期間の密度の高いリハによりその効率化を図り、ADL（日常生活動作）能力向上による寝たきり状態の予防と早期退院、家庭復帰することとされています。回復期リハ病棟への入院患者の疾患は脳卒中が最も多いですが、脳卒中患者の中には、アパシーなどによる意欲低下を生じている患者が少なくないことが報告されています。一般的に、アパシーを呈した患者は積極的なリハの実施が困難となり、ADL 能力の向上が鈍化することが想定されます。しかしながら、アパシーを呈している患者と呈していない患者のリハ実施量や ADL 能力回復量、意欲低下の変化量の違いについて、詳細な分析は行われていません。

今回、回復期リハ病棟入院時・退院時の Functional Independence Measure（FIM）ややる気スコアの点数、回復期リハ病棟入院中に実施したリハの単位数を解析したデータを活用し、アパシーを呈した患者と呈していない患者のリハ実施量や ADL 能力回復量、意欲低下の変化量の違いについて明らかにし、ADL 能力向上を図るための一助となることを目指していきます。

今回の調査には、入院中に実施した PT（理学療法）・OT（作業療法）・ST（言語聴覚療法）・リハ合計単位数、入院時・退院時の FIM 合計点数とやる気スコアの点数を用います。方法は、やる気スコアの点数を用いてアパシー群と非アパシー群に分け、各群の上記単位数や FIM・やる気スコアの点数の利得についてデータ比較をします。

これらの研究は 2025 年 1 月～2026 年 3 月の間に実施します。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、性別、疾患、身体機能の情報、生活状況の情報 等

### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。  
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

(倫理様式 2-2-1)

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 リハビリテーション部

研究責任者：門脇一樹

住 所：群馬県伊勢崎市太田町 366

T E L : 0270-27-8813 F A X : 0270-24-3359

-----以上